



断水時、貯湯ユニットの水を生活用水として使えます!



貯湯ユニットカバーの名称



脚カバーをはずした状態



エコキュートから水を取り出す方法

- 貯湯ユニットのA・B・Cのカバーをはずす。
- 漏電ブレーカーの電源レバーを [OFF] にする。
- 給水専用止水栓を閉じる。
- 逃がし弁のレバーを開く。
- 付属の非常用取水栓ホースを取水口に取付ける。
- 排水三方弁を非常取水側 (左) に回す。
- 取水が終わったら、排水三方弁を通常側 (閉) にする。
- 逃がし弁のレバーを閉じる (下げる)。
- 非常用取水栓ホースをはずす。
- すべてのカバーを元通りに取付ける。



非常用取水栓ホースから水が出ます。ポリタンク、バケツなどの容器で受けてください。

貯湯ユニットから水を取り出す際の注意点

- 取水時は熱湯が出る可能性があるため“お湯に触らない”。やけどの原因となります。
- 漏電ブレーカーは、濡れた手で操作しない。感電の原因となります。
- 飲用しない。

■エネファーム、エコウィルからも生活用水を取り出せます。詳しくは、ご契約されているガス会社にお問い合わせいただくか、お持ちの取扱説明書をご覧ください。



地震による通電火災対策には、感震ブレーカーが効果的です!



通電火災とは、地震などの自然災害時に、停電から電気復旧の際に発生する火災のことをいいます。阪神・淡路大震災や東日本大震災では、総出火件数の約6割<sup>※</sup>が電気関係の火災によるものでした。

※出典：大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会／内閣府(防災担当)「感震ブレーカーの普及に向けた取組状況」平成28年3月、「大規模地震時の電気火災の発生抑制対策の検討と推進について」平成27年3月より



■感震ブレーカーは「らいさぽ」で購入いただけます。

通電火災を防ぐためには

〈停電発生時〉

- ・電気機器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- ・自宅から離れる際は、ブレーカーを落とす。

〈通電再開時〉

- ・電化製品や配線が損傷していないか、燃えやすいものが近くにないかを確認後、電化製品を使用。
- ・水に浸かった電化製品は使用せず、お使いの製品のメーカーに相談。

本誌L-2・3ページで「らいさぽ防災グッズ」を特集。ぜひお役立てください。



らいさぽWEBサイトはコチラ

災害時に停電や断水が発生した場合の対処方法

※メーカーや機種によって操作方法が異なる場合がありますので、お持ちの取扱説明書もしくは、お使いのメーカーのホームページをご確認ください。



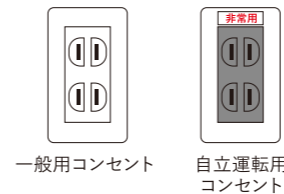
太陽光発電システムは、停電時でも電気が使えます!



太陽光発電システムは、停電時でも「自立運転機能」で電気を使うことができます。停電時に備え、「自立運転機能」の操作方法を覚えておきましょう。

「一般(連携)運転モード」から「自立運転モード」への切り替え方法

- 「自立運転用コンセント」の位置を確認する



- 「主電源ブレーカー」をオフにする
- 「太陽光発電ブレーカー」をオフにする。
- 「自立運転モード」に切り替える
- 「自立運転用コンセント」に使用する電化製品の電源プラグを差し込む

復旧時の対応

停電が復旧したら、以下の手順で通常の運転モードに戻します。

- 自立運転モードを解除する
- 太陽光発電のブレーカーをオンにする
- 主電源のブレーカーをオンにする
- 一般(連携)運転モードになっていることを確認する

注意点

- 復帰操作をした後は地域によって150秒~300秒ほどの待機時間が入ることがあります。
- 自立運転モードのままになっていると売電ができません。

停電時に自立運転機能を使う際の注意点

- 雨天時・曇天時に家電を接続すると突然電源が切れる可能性があります。
- デスクトップ型パソコンや医療機器など電源切断により重大な問題が発生する恐れのある家電は、自立運転機能での使用を避けてください。

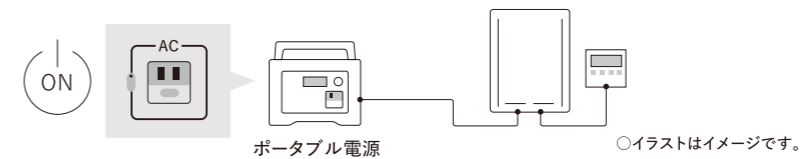


停電時、ポータブル電源を接続することで使うことができる給湯器があります!



ポータブル電源の使い方

ポータブル電源のAC出力端子に給湯器の電源プラグを差し込んで、ポータブル電源の出力ボタンを押す。



ポータブル電源を使用する際の注意点

- ポータブル電源が使用できない給湯器があります。
- 給湯器によってポータブル電源の推奨品が異なります。詳しくは、取扱説明書をご確認いただくか、お使いの給湯器メーカーにお問い合わせください。
- 給湯が使えるのは、ガス・水道が使用可能な場合に限りです。
- ふろ自動運転や追いだし、暖房機器は使用できません。
- 給湯能力が制限される場合があります。
- 延長コードなどを使用して、なるべくポータブル電源は屋外で使用しないでください。

誌上  
メンテナンス  
講座

vol.62

災害時の  
設備取扱い  
方法



いつ起こるか分からない災害。他人事ではなく自分事としてとらえ、もしもの時に備えましょう。



[技術監修]

植月 英貴

トヨタホーム  
アフターサービス  
担当DIYアドバイザー